

令和6年度第3回 近江八幡市立図書館協議会 議事録

議会日時：令和7年3月25日（火）午後1時30分～午後3時

場所：近江八幡図書館 2回会議室

出席者： 委員10名

國松完二（会長）、市島恵子（副会長）、伊丹校長（八幡東中学校）、善住校長（金田小学校）、深井園長（金田幼稚園）、青木みどり、田邊愛子、小椋ふじ子、工藤雅子、岡田さよ子

事務局3名 奥村館長、村田館長補佐、世古主査

事務局）ただいまより令和6年度第3回図書館協議会を開催いたします。

本日司会を担当させていただきます。よろしくお願いします。それでは開会にあたりまして、館長よりご挨拶申し上げます。

館長）皆さんこんにちは。本日は年度末のお忙しい中、急な開催にも関わらず、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。今年度も後、わずかということで、一応、令和6年度の事業は、滞りなく終了させていただきました。またお手元に資料がございますので、後程説明させていただきます。

そのなかで、特筆すべきなのは安土図書館の30周年記念事業として、はやしますみ先生と、小説家の中野順哉さん、安土中学校の皆さんが、本について語るトークショーを行いました。先生方の引き出し方が良かったのか、中学生たちが、本について、たくさん話してくれたのが驚きで、中高生の読書離れと言われてますけど、まだまだ捨てたものじゃないなというふうに思いました。

また児童文学作家の村中李衣さんの講演会を学校教育課、生涯学習課等、教育委員会が一丸となって取り組みました。また絵本作家の薮内正幸さんの原画展、息子さんと薮内美術館長薮内竜太さんの講演会をいずれも近江八幡おはなし研究会と共催で行いました。図書館単独でなく、関係課や読書団体と関連し、読書普及の事業ができたというのも大きな成果があったのではないかなと思っています。

特に今年度は文科省の方からも書店連携を推進するように言われていますが、先ほど申しました事業は、全て、滋賀県書店商業組合近江八幡支部とタイアップし、連携した取り組みができたのではないかなと思っています。

それから2点目といたしまして、前回ご審議いただきました図書館の休館日について

てですが、市議会の定例会で認めていただきましたので、令和7年度から近江八幡館は月曜日火曜日、安土館は火曜日水曜日の休館となり、閉館時間は一律午後6時までとなります。

十分な周知を行って実施していきたいと思っています。市議会からは、休みが増えるので、市民周知の際には「館外サービスを充実するため」と、理由をしっかりと入れてくれというふうに言われていましたので、周知の際はそのようにさせていただきたいと思っています。

また遅番出勤の人数が少なくなるのではないかとという質問もいただき、警備については重々強化をするようにというご要望もいただきましたので、対応させていただきたいと思っております。

休館となりました火曜日につきましては職員研修並びに、移動図書館巡回のポイントを増やして、更なる館外サービスの充実に努めます。

本日も忌憚のないご意見を図書館運営に反映させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局）それでは本会議の成立については、規則の規定によりまして、委員の過半数の出席が必要となりますが、現在、委員12名中10名のご出席いただいておりますので成立していますことをご報告いたします。

議題に入る前に会長および副会長の選出を行います。規則によりまして、会長および副会長は委員の互選となりますが、皆様いかがでしょうか？

委員）事務局のおまかせで。

事務局）ありがとうございます。事務局一任の声をいただきましたので、事務局より提案させていただきます。会長に國松完二様、副会長に市島恵子様をお願いしてよろしいでしょうか？

ありがとうございます。それでは國松様市島様、前の席へお願いします。これ以降の進行は國松会長様をお願いしたいと思います。

会長）会長に選ばれました國松です。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年の7月から令和8年6月末までの2年間の会長、副会長を本日選出しましたという、イレギュラーな形になりました。ご了承いただきたいと思います。

それではちょっと議題に入る前に、私の挨拶ということで、3部資料お配りしています。「関西の図書館たち」に、県内の図書館が紹介されています。「みんなの図書館」という雑誌に掲載されたものですが、近江八幡の場合は「図書館サービス計画」は、ちょうど2年目に終わったのですが、第1期の計画は10年間と非常に長い期間の計画で、これに基づいてずっとサービスの向上を目指してきた。周辺の自治体から見ても近江八幡のこれまでの活動というのは、高く評価されているということです。

たまたま今年の夏、京都で全国の若い図書館の司書の人たちが集まった大会があったのですが、簡単に「どこの図書館を見るといいよ」というようなことで紹介されているなかに近江八幡市の図書館を評価している。せっかくの機会ですのでコピーして、お配りしました。

10年ちょっと前というのは、近江八幡ってというのは、なかなか本を買う予算にしても非常に厳しい状態のなかで、「図書館サービス計画」というものをつくった経緯があります。その後、ずっと一つの目標を設定して取り組んでいただいて、その成果がようやく実ってきたというようなところで、この文章の中でも、「近年資料費が増額し続けている注目の図書館です」というような書き方をしてくれています。

大学生に図書館のさまざまな科目を教えています。関西の方で5つぐらいの大学で延べ400人ぐらいの学生に教えているのですけれども図書館の運営状態をどう評価するかというような事業があります。それぞれ自分の住んでいる市町の図書館を、公表されている統計とか数字で評価をしてみましようという演習をしています。

そのときに作っていた資料がお手元の資料「近江八幡市立図書館資料費の推移、貸出冊数の推移」です。人口1人当たり資料費が2010年は137円。これが15年前の八幡図書館の状況です。それがずっと変わってきて、今年度の部分が出てないのですが2013年から上がっている。計画を作ったということもありますし、いろんな取り組みですね、特にほとんど経験したことない移動図書館サービスを運営し、メリットを作られた。そういうところが非常に大きいのかなと思います。

県内の平均的な数字達成をした。全域サービスを達成して次に何を目標にするのか。考えてもらわないと、ある意味追いかけている間は良いが、こういうふう to 一定の数字を起こした後に、これから図書館どういう方向性をするのか。

非常に大事なことです。その辺はまた協議会の委員の皆さんにご意見いただけるといいかと思います。あともう一つはこの横版の資料は全国で人口8万人から10万人

の61の自治体の実態です。協議会の皆さんにも気をつけておいていただきたいのは、一番左に運営体制がありますが、全国的にも非常に民営化が進んでいる。文化施設以外のいろんな公共施設というのはいわゆる地元の民間の事業者が運営しているケースが多いのですが、図書館は比率的に少ないのですが、滋賀県でもどこかが、指定管理になれば広がることも考えられる。それだけ財政的な面で運営が厳しい。

今すぐなにか起こるということではないのですが、かつて指定管理者制度の問題が上がったこともあるので、報告いたしました。

それでは最初の議題について、図書館の方から簡単に説明してください。

事務局) 次第をめぐってもらってすぐの「近江八幡市図書館令和6年度報告・令和7年度予定」という資料をご覧ください。

先ほど館長の挨拶の中でも触れておりますが、一番として、令和6年度の報告としては、8月3日には「聞かせ屋。けいたろう」さんの、親子で楽しむおはなし会、8月21日は読書活動推進研修会、9月13日は近江文学講座をさせていただいております。9月29日ははちっこぶっく号にて国スポ・障スポのイベント「1Year To Go」に行ってみりました。

それ以外ですと、はちっこぶっく号ミニの特別巡回で、大規模の就学前施設はほぼ回らせてもらいました。

安土図書館の30周年記念事業としましても、はやしすみさんの原画を、新作の作品の原画を展示させていただいたのと、23日にはトークショーをさせていただきました。これは予想よりも多く、90名ほどの方が来ていただいて盛況に終わりました。ありがとうございます。

12月5日から15日に荻内正幸さんの絵本原画展を開催、25日には講演会をさせていただきます。

2月12日には和歌山県的那智勝浦町が移動図書館車の視察に来られ、対応しました。

令和7年度の予定は、未定なところもございますが、子ども読書活動推進研修会、近畿学校図書館研修研究大会が8月にあります。

館長の挨拶にもありましたように、図書館の休館日が変更になります。詳しくはこ

ちらのカレンダーに書いてありますのでご覧ください。それに伴って、移動図書館車の巡回ステーションを増やすことが決まっており、安土小学校のほかに2ヶ所程度増やす予定です。

あとブックトークなど研修を再開させてもらって、なるべく早い時期に各学校に行けるようにしたいと思っております。

以上で報告を終わります。

会長) ありがとうございます。皆さん、ご意見ありましたら。令和6年度の報告、令和7年度の計画案どちらでも結構です。私がさきほど話した内容への質問でも構いませんので、皆さんからご意見いただきたいと思います。

委員) 今年度の中学生を対象にしたトークショーに、私も寄せていただいたのですが、すごく良かったと思います。私はできれば図書館さんが何かされる時にYA世代の子が、何かできるような研修会が欲しいなと思っていました。トークショーに出た子どもたちは、やればできるんだ、と思ったと思います。もっとやれるかなという欲みたいなものが出てきたみたいで、それを踏まえて安土中学校では「私の推し本」を、つい先週に実施することができました。東中はビブリオで頑張っておられます。学級代表が練習会の中で発表するというのをやって意欲を見せておられます。市内の各中学校が頑張っておられることも図書館も応援してくださって、発表会みたいに出来上がったらいいのというふうに思います。

事務局) また中学生とのコラボも、近江八幡図書館の30周年もございますので、何かこういう機会を見て、いい形でできるように検討を進めていきたいと思います。

委員) 生徒さんも親御さんも来ていただいた方も皆さん喜んでいただいていたので、いい企画だったと思いますね。

事務局) ありがとうございます。委員がおっしゃってくださったようなきっかけ作りするのが、図書館の仕事かなと思ってます。國松会長の話にも通じていきますが、次は何を目指すのかっていうところですが、手厚く地道な活動を子どもたちが主人公になるような活動を本を提供しながらやっていけたらいいなと思っています。

委員) ありがとうございます。余談ですけども、担当の先生から今までは職員室の中で、本に関しての話題がなかったけれど、推し本の発表会が終わってから職員全体に本に関する話題が増えたということです。良かったです。

事務局) 就学前施設に行ったときに、今まで園の職員同士で絵本の話をしなかったけど、絵本の話ができるようになりましたと言ってくださったところもありましたので、きっかけ作りは大事かなと思っています。

委員) 付け足しですけど、あの日は、オーディエンスとして、読書会から20人ぐらいは参加できたと思うのですが、中学生達は、素晴らしかったですよね。子どもが今あれだけ読んでいる子がいるのは驚きでした。話すのが不得手と言いながらも、上手に皆さん発言しておられ、非常に感心しました。

会長) ありがとうございます。他の部分でいかがでしょうか？私も大学でも学生向けにやっています。自分がおすすめしたい本を授業で発表させるというのをしていますけども、なかなか人にすすめる機会がなかったりします。たまたま司書課程で教えていますが、この方法は、いろいろと話をしたりという機会が増えているように思います。

委員) 先に議題になっていました次の(2)ですね。県内の今の動向ですが、わかる範囲で報告をお願いします。

事務局) 県の理事会が27日に開催されるということなので、資料は準備させていただくことができませんが、わかる範囲内でご説明したいと思います。

当館の貸し出し冊数が今年度、少し伸びて、前年度比103%となるぐらいとなる見込みです。他館の状況を見てみますと、前年度比100%以上、貸出冊数があるのは、9館のみだったというところで、非常に今、移動図書館車の巡回も含めて頑張った年ではないかなと思います。また、令和7年度の資料費につきましては、前年度比と同様の額となりました。100%以上図書費がついたところは11館でしたので、なかなか財政状況が厳しい中、健闘できたのではないかなと思っています。

ちなみに令和7年度の資料費につきましては約2,450万円ついております。以上です。

会長) ありがとうございます。あと私がわかる範囲で補足しておくと、館長からのお話で6月から休館日を変更することについては、そこで仕事している職員の働き方などの対応や業務への対応をどうしていくか。県内ですと栗東市の図書館が近江八幡市と逆で、月・火曜日を休んでるのを4月からは月曜日だけに変えるということです。

近江八幡市と同じような対応をとるのは、高島市の図書館です。全部で6館ありま

すが、それまでどこでも利用できるように、休館日がバラバラだったのを、4月から全ての館の休館日を統一されます。

開館時間も曜日によって午後8時までという対応をしていたのを全て一律6時にするという事です。これも規則の改正が必要で、認められました。滋賀県内の図書館は、合併時にどこかが開いてるような形で、結構バラバラに休館日を設けたり、一時流行りみたいなもので、いつでもどこかが利用できるというようにしていましたが、実際、なかなか図書館の中で働く職員がそれにきちんとどこまで対応できるのか、難しい部分があるんですね。会議すら全員が集まる日の設定できないということもあります。

そういう中で職員がきちんと自分の図書館で何をしないといけないか職員同士が協力しながら、利用者の皆さんとも協力して継続していくということが大事であります。近江八幡では先ほど言いましたように第1期のサービス計画10ヶ年計画、昨年度から第2期計画ですが、県内でも草津市なんかは、「読書のまち」宣言という、市全体で読書のまち推進をどうするかという計画を新たに掲げられました。また、県内の各自治体の図書館、ほぼ同じような時期にそろそろ建物が30年とかやってきて、多くのところで施設の大規模改修が取り組まれるような状況にあります。彦根市は実施設計をしてようやく本格的に図書館新しい拠点を作られます。これは彦根市民からすると長年の悲願です。これらが主な県内の状況です。

ご質問などありましたらどうぞ。図書館から説明していただいた部分、全体を含めて自由にご意見の方を出していただければと思いますが、いかがでしょう。

委員) 移動図書館のことについて1年間やってこられて、どうでしたか。

事務局) コミセンなどの一般ステーションでは利用が多いところと少ないところの差が大きくなってきて、もう少し来年度につきましては周知といいますか、まちづくり協議会等にもご案内しながら周知を進めて、それでも利用が少ないとあれば、別のポイントに変えるということも必要であるかなというのを1年かけて検討したいと思っております。

委員) 子どもはどうですか。

事務局) 子どもの利用は伸びているのですが、先ほど次に何を指すのかということから辺にも関わってくると思うのですが、移動図書館車を入れて、珍しさもあって子どもたち来てくれました。でもやっぱりちょっと中学生ぐらいは、だんだん目減りして

いるのがわかる。例えば小学校でしたら人気のある本「サバイバルシリーズはありますか。」と聞いてくる。棚になかったとしたら「ない」で終わらず、「サバイバルの代わりにこういう本があるよ。私この本読んで、ものすごい面白かったけど1回読んでみる？」と、次の本を紹介できる。「サバイバルはないけど、似ているこういう本あるよ」と、その子が納得するまで、あらゆる本を根気よく紹介できるのが司書です。それができてこそ司書ですので、それができる職員を丁寧に育てていきたいと思い、月火休みにさせてもらって、火曜日はその研修に充てたいというふうに思っています。移動図書館で中学校へ行っても手ぶらで子どもたちを帰さないで、と言っています。例えば、本を借りなくても会話して、信頼関係を築くとか、そういう事をしてほしいという思いがあります。貸出冊数は伸びているのですが、本の質ということに次年度からはこだわっていきたいと考えております。

委員) 車の前に、今日はこんな本がある、とか何か工夫されたらどうですか。引き寄せる何かがあったらよいのではないのでしょうか。

委員) 移動図書館車の音楽は鳴らしますか？

事務局) 学校・園では鳴らしませんが、一般ステーションは音楽を流しています。図書館車が来ますという案内とともに近江八幡市歌のオルゴールバージョンを流しています。ジブリの映画の曲などは著作権の関係で無理ですが、いつか変えたいです。

委員) 今おっしゃったように伸びてないところと、点検までいかないにしても、やっぱりそこは1回変えると、新鮮な感じになるのでは。そして随時、本の中身が変わってるってことも理解してもらわないといけません。中身があまり変わらなくなると、もうこれしかなかったら行かへんわ、となりますね。

何かをPRしていかないと、ある程度まで伸びてそれ以上伸びないとかいうようなことも考えられるかなということですね。

事務局) 例えば、小学校では、中休みに行っていますが、当初は先生が生徒を移動図書館車に連れて来てくださって、一人1冊は借りるよう指導してくださっていたのが、今は、中休みだと運動場で遊びたい子は遊ぶ、本を借りたい子は移動図書館へ行くという自由選択になっているところもあり、やっぱり遊びの方に行ってしまう、なかなか来てくれないところもあります。声かけたりとか、話しかけたりするのが大事かなって思っています。学校も朝の放送の中で「今日、移動図書館が、何時から何時まで来ます。」ということを書いていただいているところもありますが、ひと声ある

と覗きに来てくれるかなと思います。面白い本があったら行こうか、となっていくといいかなと思います。そこを大事にしていかないと、良くなっていかないかなと思います。

これからの方が正念場かなと思っています。

委員) 読みたい本などのアンケートを取ってはどうか。

事務局) アンケートを取るのもよいかと思いますが、アンケートの回答の本を購入して、極端ですが、読みたい本のみ提供するというようなことになってしまうことになりかねません。リクエストされるままに人気の本をたくさん購入するはどうか。もうちょっと司書がおすすめする本を読んでもらうにはどうしたらいいか、というところを苦慮しています。

委員) 司書さんとしての仕事の中身で触れられましたが、さっきの話題になったビブリオバトルというのは、子どもたちが自ら読み、この本これいいですよっていうことですね。それもいいんだけど、昔から伝わっているこういう本をぜひ、この年代には読んでもらいたい、というものがどんどんもっと前に出してもらうのは、いいなと思うんです。

そういう意味では、私達はブックトークでは子どもたちは多分こういう本は読んでないだろうなということも考えながら紹介してるつもりです。

例えば今広報誌に大人向けと子ども向けの本の紹介がありますよね。そのなかでYAの本の紹介をちょっと一つ入れてもらえとか、そういう本に出合える場面があったらすごくいいのではないかな。

事務局) 広報に紙面を獲得していただけるように交渉してみます。それはあったらいいと思います。そう考えると、やはり、ブックトークは大事かなと思ってます。今ブックトークは休んでいるのですが、司書のおすすめの本をブックトークでやると、必ずその本にリクエストがついたり、借りに来てくれたりとか、「この本読まへんやろなあ難しすぎて」と思う本でも借りに来てくれたりするので、ブックトークは大事だと思っています。だからそれを頑張って、来年度はやりたいと思っています。またいろいろご協力いただけたらありがたいです。よろしくお願いします。

委員) 長年、図書館の管理などをやってくださってるなかで、こういうことをしたいなとか、こういうことができるといいのに、というものを持っておられると思う

のです。できるかできないかとか、予算があるかないかとか、人手不足だとかいろんな事情はあると思うのですが、図書館の職員の方が長年関わってくださっているなかで、ぜひこれがしたいとクローズアップするものがあれば、1年それに取り組んでみるとかどうでしょう。携わってくださっている方々の中で、ぜひ今年度はこうしたいという打ち出し方も必要かなというふうに思います。

事務局）ありがとうございます。

会長）他はいかがでしょうか？

委員）SNSなどで多くの情報があふれて、刺激の多いもののほうが魅力的と感じてしまう時代に、図書館をどういうふうに位置づけていくのかを、教育に携わっている方にはこういう時代だからこそ、子どもたちと本という関係をひとつの思いをもってぜひ考えていただきたい。

会長）先生方いかがですか。

委員）八幡東中学校です。子どもたちと本を読む、読書を結びつけるという取り組みが必要かと考え、本校では、図書館教育の研究発表会があったので、それをビブリオバトルに据えたので、どこまでの力を子どもたちに力をつけるのかという視点で、令和6年度は取り組んできました。

なぜ、ビブリオバトルを選ばれたかというと、朝読書を毎日ダラダラ続けるのではなく、ビブリオバトルには、子どもにつけたい力の要素があります。まず紹介する本を読み切るということ。人に紹介するということは、プレゼンテーション力をつけないといけない。そして、その後の質疑応答で魅力を語る場面がどうしても出てくるので、質疑応答でいかにその本の良さを引き出すか、という力が必要です。そこまで生徒の力を高めるというのが目的で、うちとしてはビブリオバトルを選んで、今年度欲張って全校のバトルを2回実施しました。学校側としては手順はかかります。自分の学級の中で、まず読書を1日読書する。そこから発表するので、発表の原稿を作らないといけないし、今度は学級で選抜しないといけないし、次は全校で選抜しないといけない。結構な時間が増えていきます。今年度は2回でしたが、いろいろ皆さんに見ていただきながら評価をしていただいて続けていこうと考えています。教育委員会でも読書（ビブリオバトル）に力を入れていくと言っている。

委員）金田小学校です。東中のビブリオバトルに参加させていただいて、その様子を2学期の終業式に全校生徒に喋ったんです。みんなの先輩がすごく堂々と本を紹介さ

れててすごく盛り上がったんだよと。もともと金田小学校は5年生でビブリオバトルをすることになっていて、この終業式の話聞いた5年生が見に行きました。やっぱりすごく良かったです。まず、選んでいた本が結構良かったです。

昨年度、2年にわたって研究させてもらっていて、保幼小学校で連携をするという研究があって、その研究発表大会での公開授業では、図書館を使った授業が多い。

そのうちの一つ『もちもちの木』を国語部門の授業を園長先生始め、見てくださって子どもたちはもちろんですが、担任がもうなんかソラで言えるぐらい読み尽くしたということを喋っていたので、ぜひ、それを読み聞かせしてくださいって言うので、先生が金田幼稚園に読み聞かせに行くというのが初めての試みでありました。これはよかったなあと思いました。金田小学校は立派な図書館があるので、結構図書に力を入れている学校です。

管理職としてやってるのは、図書館の担当者会議のような、教育主任と学校ボランティアとの会合。それと校長との会合を年1回以上は会議をもっています。

ボランティアさんも35名以上登録していただいている、図書ボランティアもしていただいています。秋に図書館まつりを毎年やっていただいている、これは、本に書いてある内容を基にしたクイズを解いて、スタンプラリーの形でコーナーを回って最後にしおりのプレゼントをもらうというものです。そのしおりをボランティアさんが作成してくれる。そこに先生たちのおすすめの本を書いて、校長先生のおすすめの本が欲しいとか、〇〇先生のが欲しいみたいな感じで、結構子どもたちが喜んでいます。そうした、本と人を繋ぐ取り組みをしていて、年間計画に入れて無理なく活動できるようにしています。課題は、子どもたちが家庭で本を読まないことで、PTAとも連携した取り組みも実施していて、来年度滋賀県で開催される学校図書館の近畿大会で発表させてもらいます。ただ読書率が伸びないのが課題です。

やっぱり読むことの必然性、目的を持って読み合うことが大事では。2年連続でここでは教育長賞をいただきました。

委員) 金田幼稚園です。中学校では「目的をもって、読む」というふうにおっしゃっていましたが、就学前はまだ、目的というよりは、子どもたちの近くに、いかに絵本があるかというところを大事にしていきたい。小学校のようにきれいな図書室がないので、各部屋に眠っている絵本を1ヶ所に集めてようと、何とかボランティアの力を借りて作りました。

先生たちは、毎日必ず1冊は本を読んでいる。^{うちどく}家読という話もありましたが、保護者が絵本を好きになることにより、子どもに絵本が届くだろうと思って、いつでもどうぞという感じで、空き部屋が2階にあるのでそこに作ったのですが、靴を脱いだり、ベビーカーを置いて2階へ上がるのは大変なので、1階に絵本を入れたワゴンを置いて、毎日通るところに置いてみると、やっぱりそこだと手軽に借りていただけます。

会長) ありがとうございます。

委員) 基本的に先生たちの横のつながりができて、そこから広がっていくとよい。

取り組みを継続してやっていかないと。切磋琢磨していくところから一步一步進んでいくのではないかと感じました。図書館は、いつも一生懸命やっていただいております。

事務局) みなさん本当に一生懸命やってくださってありがたいです。はちっこぶっく号のミニでは貸出だけでなく、おはなし会も実施しているが、今年度から近江八幡おはなし研究会さんがおはなし会をしてくだることになり、私達がミニで行っている園のおはなし会に入ってくださったということが子どもたちには大きな力になったかなと思ってます。図書館も頑張っているが、近江八幡おはなし研究会は半世紀の実力がございますので、研究会のメンバーに、ストーリーテリングと読み聞かせを必ずしていただいている。ある園ですが、行き始めた当初は、子どもたちがまったくストーリーテリング(素話・おはなし)を聞けなかったが、回を重ねるごとに聞けるようになった、と伺っている。この積み重ねが大事かと思っている。子どもたちが絵本を楽しむ機会を作り、図書館と移動図書館車で本の貸し出しをして、学校でもいろんな取り組みを行っているが、読書普及を継続してやっていくことが、力になりつつある。教育目標の中でも来年度はビブリオバトルを入れていくことになっている。民間公立が一丸となって地道に取り組んでいくことが読書普及には大事なことで改めて思っています。

会長) ありがとうございます。学校司書の配置についてですが、去年県の教育長が、令和6年度までに小中全校配置を表明したみたいだが、去年県が実施した学校図書館向けの研修会で、はじめて実際に各自治体に学校司書といわれる人が何人いるのかがあきらかになった。それまでは、国の統計では2校を1人で掛け持ちしていたら、2校とも配置していると報告されていた。実人数で100%配置している自治体はな

い。長浜市は20人以上いるが、学校数が40校以上あるので、2校を1人でかけもちしている。それでもまだよい方。近江八幡市はどうか。

事務局) 2校に1人配置となったので、以前に比べると良くなった。ただ、司書資格を持っている人と持っていない人もいるので、研修などを積んでいただくしかない。学校教育課から研修を依頼されたらする用意はある。図書館に本を頼んでくれる場合も、司書か否かで違いがある。

事務局) 資格をもっている方と、そうでない方とも違うし、学校の先生から依頼を受けた後、そのまま市立図書館に丸投げされて、学校司書として考えて本を選ぶ、集めるところまで至っていないことがある。これでは何のための学校司書か、と思ってしまう。

委員) 人数的には令和6年度は2人増えて、8人の学校司書が2校を担当することになった。来年度にもう1名でも増えれば、1人で1校に専念できる。そうすれば、1人が専任でいることで、学校図書館が目に見えてよくなれば、専任で1校に1人置こう、という流れができるのではないか。学校司書の仕事はこういうもの、ということを実践して、先生方に見てもらえれば、理解は深まり、学校司書の人数も増やしてもらえるのでは。人数が増えれば増えるだけいろいろな考え方が出てきて、それを調整するのも難しくなっているのでは。これが学校司書の仕事ですよ、ということをもっと前面的に押し出す必要があるのではないか。司書によって、それぞれの現場の取り組み方が違うのはどうかと思っている。今年度県教委が学校司書をやりたい方の研修を実施し、近江八幡市からも1人受講されたが、その方は市の学校司書に応募されなかった。

事務局) 周知も足りなかったのでは。私見なのですが、教育委員会に学校司書のマネージメントをする先生がおられるのですが、他の仕事もしながら兼任でされている。それを専任にさせていただく、もしくは専任を雇うなどして、図書館と学校司書さんを繋ぐマネージメントをしてくださることはできないのか、と何度か伝えてはいる。専任でそういう方がいらっしゃると、現場での課題の解決につながるのでは。それは市立図書館ではできないことなので、そういう立場の方がいるとよいのかと思う。

委員) 予算がないと難しいのかもしれない。

事務局) 会計年度任用職員となると、むずかしいです。

会長) 全国的にも学校司書は非正規であり、雇用条件も悪い。学校図書館のサポート

は公共図書館がしなさい、というような考え方が根強い。

事務局）学校図書館長は学校長なので、所管が違うのではないかと思います。

会長）公共図書館と学校図書館がうまく連携できていないということはいえると思います。その要因の一番目は各学校図書館で実務に携わる人が司書の資格を持っている持っていないを別にして、配置されている人の数が少ない。そのうえ、職員会議にすら入れてもらえない、ということもあったりする。学校長の考え次第で、かなり状況も異なります。公共図書館の設置率が日本はほぼ100%となっている現在、学校司書のサポートを公共図書館がしなさい、という考え方が強くはなっている。県内では愛荘町や日野町は学校司書を公立図書館が抱えている状況です。

委員）学校司書以外に司書教諭という方がいる。学校司書と学校の橋渡しをするのが司書教諭の仕事だと私は思っているが、学校の現場では司書教諭の先生方の自覚があまりなく、司書教諭が教科で使う図書などを把握して市立図書館へ伝えることができていない。どこの授業で何を使って、何を充実させるかは司書教諭の力が必要。図書主任よりも司書教諭を機能させるべきだと思う。

委員）学校の先生は授業に使う資料を探したいと思っている。学校司書は学校図書館を円滑に運営して子どもたちが本を読んでもくれるよう工夫を凝らしたいと思っている。司書教諭が使いたいと思っている資料を学校司書が引き受けていけるよう、整理しないといけない。しかし、学校司書と司書教諭を繋ぐような会議がない。

委員）学校司書、司書教諭、図書主任の3者の機能をはっきりさせる必要がある。

会長）司書教諭の発令は、クラスの数などで学校の規模ごとに決まっている。しかしほとんどが図書の担当をされていないのが現状。図書館、図書の事は学校司書におまかせという状況が起こっている。こうした問題は全国的に起きている。

他に質問はありませんか。全体的なことでも結構です。

委員）この表（人口8～10万人自治体の各種統計：全国61団体中）を面白く見ている。予算があれば貸出冊数が多くなる、というわけではないのですね。

会長）新しく図書館を建てたりすると、貸出冊数が多くなるが、図書費は臨時的経費となることが多く、図書費に計上されないことがある。

委員）あま市はすべてにおいて最下位（図書費は最下位から2位）。

事務局) あま市は指定管理者制度の図書館。指定管理の図書館で、本館のみ直営で分館を指定管理者制度というところを過去に見学したが、本館はとてもよいサービスをしているが、分館と校・園との連携の状況を伺うと、それは仕様書に入っていないからやっていない、とはっきり言っていた。そういう指定管理者のところは数字にも表れてくるのかもしれない。

委員) 滋賀は上位を占めていて、その中に近江八幡市が入っていることはうれしい。

委員) 61自治体の中で滋賀県の自治体はほとんど上位に入っていて、頑張っている。

会長) 滋賀県内の図書館の指定管理者制度はどこも導入には至っていないが、指定管理になるかもしれない、という危うい状況の自治体もある。しかし、滋賀県内の図書館は、どこも県内で一番最初に指定管理を導入したくはないという思いが強く、近隣の自治体の動きを伺っているところがある。逆にどこかが導入してしまうと、滋賀県はどこも財政の状態はどこも良くないので、導入が連鎖的に進んでしまう可能性がある。30年ぐらい前から県内の図書館が建ったが、どこの自治体も図書館への思い入れが強い。しかし、公共施設はすべて民営化するべきだとはっきりとおっしゃる方が多くなっているので、図書館の現場の職員がどういうふうを考え、対応するかで変わってくる。ぜひ頑張ってください。

委員) 来年度は第2期図書館サービス基本計画の5年間の3年目でちょうど中間にあたります。休館日、開館時間といった大きな変更がありますので、市民の皆さんが実際に使ってみてどう受け止められているかを検証していかなければならないと思います。この辺りも協議会の委員の皆さんにご協力をいただきたい。

事務局) 本日令和7年度の人事異動の内示が出て、これまで近江八幡図書館長と安土図書館長が兼務となっていました。安土図書館長が新たに就任、近江八幡図書館長、館長補佐、事務長、館長は近江八幡図書館のみの勤務、それ以外の正規職員は近江八幡図書館と安土図書館の兼務となります。今後どうぞよろしくお願いします。

本日はありがとうございました。